

第40回日本産業標準調査会総会・ 第17回基本政策部会に関する報告

令和7年7月

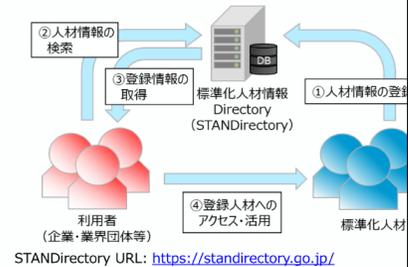
イノベーション・環境局 基準認証政策課

第17回日本産業標準調査会基本政策部会について①

- 令和7年5月29日に第17回日本産業標準調査会基本政策部会を開催され、「日本型標準加速化モデル」の実現に向けた取組状況や、今後の基準認証政策の方向性について議論が行われた。
- 本検討会に関して、「STANDirectoryの状況」「学会連携に向けた働きかけ」「アカデミア人材の標準化活動の評価に向けた検討」「標準化教育プログラムの実施」について報告を行った。

①標準化人材育成 「標準化人材情報Directory (STANDirectory)」の構築

- 2024年6月に「規格開発・交渉人材」の検索や、ISO/IEC等の標準化活動経験、対応
- 同年8月に「知財・標準化一体サポート
- 2024年6月～2025年3月末までに約27,



- STANDirectory URL: <https://standirectory.go.jp/>
- 【2025年度以降の取組】
- 登録項目の整備や、アカデミア人材・弁理士
 - 活用事例・ノウハウ・新たなニーズの情報収集

①標準化人材育成 学会連携に向けた働きかけ

- 学会等への働きかけを行った結果、10を超える学会等で標準化に関する連携の取組を実施。
- 取組を通じ、先端技術や分野横断的な技術他学会との連携の重要性と、学会をプラットフォームを関係者間で共有。また、学会内で標準化活動への取組成果を発表する場、標準化活

セッション・シンポジウムの開催

- 2024年度 人工知能学会全国大会 (第38回) 2024年5月29日 (水) 13:30～17:10 KS-14 AIの研究開発・社会実装・普及からみるイノベーション・メカニ
- 日本非破壊検査協会 2024年6月6日 (木) 16:45～17:45 年次総会において、経済産業省による講演を実施
- 地理情報システム学会地理空間情報標準調査会 2024年8月31日 (土) 15:00～17:00 公開型情報交換会を開催
- 横登連合 第6回横登会議 2024年9月18日 (水) 13:30～16:30 標準人材育成に関する講演・アカデミア連携についての討論
- 第73回高分子討論会 2024年9月27日 (金) 12:00～13:00 「化学・材料業界におけるルールメイキングを活用したイノベーション創」に関する/パネルディスカッション

学会誌の特集等への掲載企画

- 日本信頼性学会誌掲載
 - ・ 櫻澤, 矢田部, 勝野「鉄道分野における制御システムに対するサイバーセキュリティ」 Vol.46, No.4, 2024, pp. 149-157
 - ・ 大河原「安全性の確保・信頼性の向上における標準化の役割」 Vol.46, No.
- エネルギー・資源学会誌掲載
 - ・ 特集「日本型標準加速化モデルに関する最近の動向と今後の見通し」 2025年3月号、第46巻第2号 (通巻第270号)

①標準化人材育成 アカデミア人材の標準化活動の評価に向けた検討

- アカデミア人材は、その学識と中立な立場から日本型標準加速化モデルにおける基盤的活動及び戦略的活動の双方を支えている。他方、必ずしも昇任等における取扱いにおいては、標準化
- アカデミア人材の評価対象としての標準化標準化活動を客観的かつ適切に評価するがされた形で残されるようにすることが課
- アカデミア人材の標準化活動の評価制度化するための方策を検討すべき。

【2025年度以降の取組】

- TC/SCの国際会議や国内委員会への参画、規格開発に活動等をアカデミア人材の評価に係る書面等に記載するするための働きかけを行う。例えば、経産省が定める産学官連携のガイドラインに、アカデミアの標準化の観点が入り込めるようにすることを検討。
- 産業標準化事業表彰に加え、日々の標準化活動に取りミリア人材の貢献を見える化する仕組みを検討。
- JISの規格文書に記載される規定値や試験方法等の根拠が論文文化された場合、規格文書中の参考文献として記載することが可能であることを積極的に周知。

①標準化人材育成 産業競争力強化のための標準化人材教育プログラムの実施

- 標準化人材教育プログラムについて、①戦略人材と②専門人材に分け、2024年度は ①は筑波大学、②は長岡技術科学大学で実施。
- 戦略人材については、標準化だけでなく、ルール形成を主導するために必要な周辺知識も含めた戦略的な基盤知識を習得することを目的。
- 専門人材については、特定の技術分野における規格の活用も含めた知識習得を目的。

①戦略人材育成パイロットプログラム

- 【実施大学】筑波大学ビジネスサイエンス系 (筑波大学東京キャンパス文京校舎)
- 【実施内容】法的バックグラウンドの国際的な違い、国際地政学、エコシステムマネジメント、オープンイノベーション、サステナブル会計、オープン&クローズ戦略の理論と実践、国際競争力に関するテーマを取り上げ、産業競争力強化に資する国際標準を戦略的に活用できる人材育成のためのプログラム。完全対面形式を採用。
- 【実施期間】2024年11月1日 (金)～12月6日 (金) 毎週金曜日 全6回
- 【実施対象者】CTO等企業内において戦略的な標準化に携わる可能性のある方

②専門人材育成パイロットプログラム

- 【実施大学】長岡技術科学大学 まなびスクエア
- 【実施内容】国際的な視点でのスキルや知識を持つ人材を育て、世界的な標準 (国際規格) を作成して、日本の製品や技術の評価を向上させる。オンライン学習形式を採用。
- 【配信期間】2024年11月1日 (金)～2025年1月31日 (金) 全6回
- 【実施対象者】システム安全に関する業務に関わる方、関心のある方 (大学院、大学、高等専学生含む)

第17回日本産業標準調査会基本政策部会について②

- 基本政策部会において、様々な議論が交わされたが、本検討会に関する主な発言は以下のとおり。
 - 国際標準が発行されるまでに数年かかるため、産総研では標準化に関わる業績評価においてステージごとに評価入力できるようになった。アカデミアでも参考にしていきたい。
 - 8割の学会の人数が減少傾向にあり、学会単体で標準化を担うことが難しくなっており、また標準そのものが分野連携のトピックが増え、1つの学術分野ではカバーが困難。横幹連合を活用できるとよいのではないか。
 - 特定分野においても産官学連携が必要。産官学と伴走組織が協力することでステークホルダーが参入しやすい土壌となる。
 - 学術論文をJISの参考文献として掲載可能であることが明示されたが、これが評価されることが非常に重要。JIS、ISO等に引用された件数で表彰されると、若い研究者も表彰されるようになるのではないか。
 - 社会科学専攻の学生向けに開講した経済産業省の特別講義は参加率が高く、非常に熱心な学生が多かった。社会科学においても、インクルーシビティーやバルネラビリティといった新しい価値観・概念があるため、社会科学分野のアカデミアも巻き込んでいきたい。
 - 科学が非常に複雑になっている今、アカデミアが標準化活動を継続的に支援することが重要。アカデミアが研究し翻訳し、制度設計を行う人々にわかりやすく伝えなければ、本当の標準化や戦略につながらない。

第40回日本産業標準調査会総会について

- 令和7年6月16日開催の総会では、基本政策部会での議論をふまえ、本検討会に関する以下の発言があった。
 - 大学と企業が連携する研究クラスターにおいて、大学側も、市場作りやオープン＆クローズ戦略策定に関与すべき。そういった連携を行う人材を確保するとともにキャリアパスを作っていくことが重要。
 - STANDirectoryについて、登録されている人材を企業や業界団体がどのように活用することができるのかイメージしにくいという声があった。具体的な事例の共有や、企業や業界団体が活用するきっかけとなる働きかけを検討していただきたい。
 - 最近の若手の大学研究者の業績・研究評価はジャーナル論文が中心となっており、特にその引用が評価される。今回、アカデミアの人材の標準化活動が学術的に評価されるための仕組み作りが必要と明記されたため、これを進めていくことに期待。
 - 若手のアカデミア標準化人材を整備するため、比較的小さな標準モデルを構築しているTCに若手のエキスパートとしてアカデミアを送り、学習する機会を提供するような枠組を検討いただきたい。